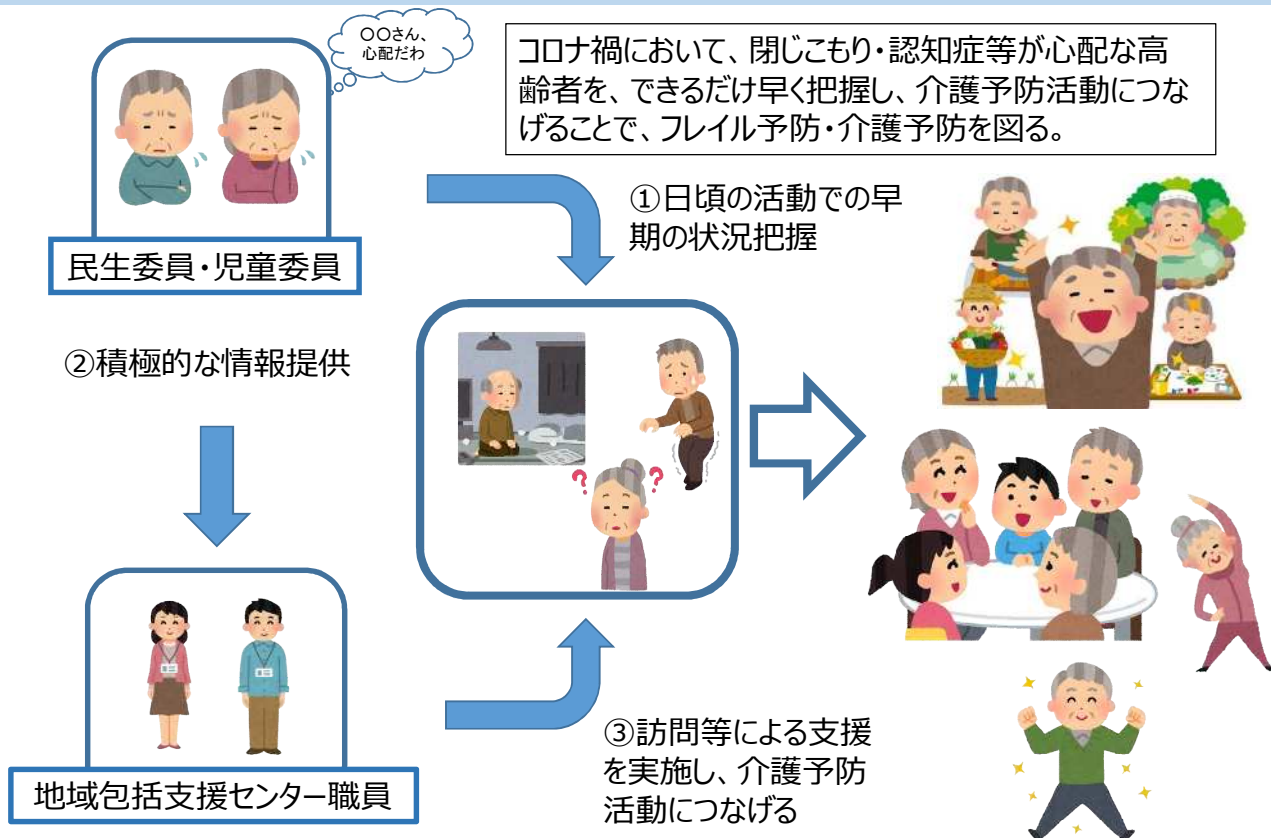


閉じこもり・認知症等が心配な高齢者の情報をお知らせ下さい ～介護予防把握事業への協力のお願い～

地域包括ケア推進課



＜民生委員・児童委員の皆様をお願いしたいこと＞

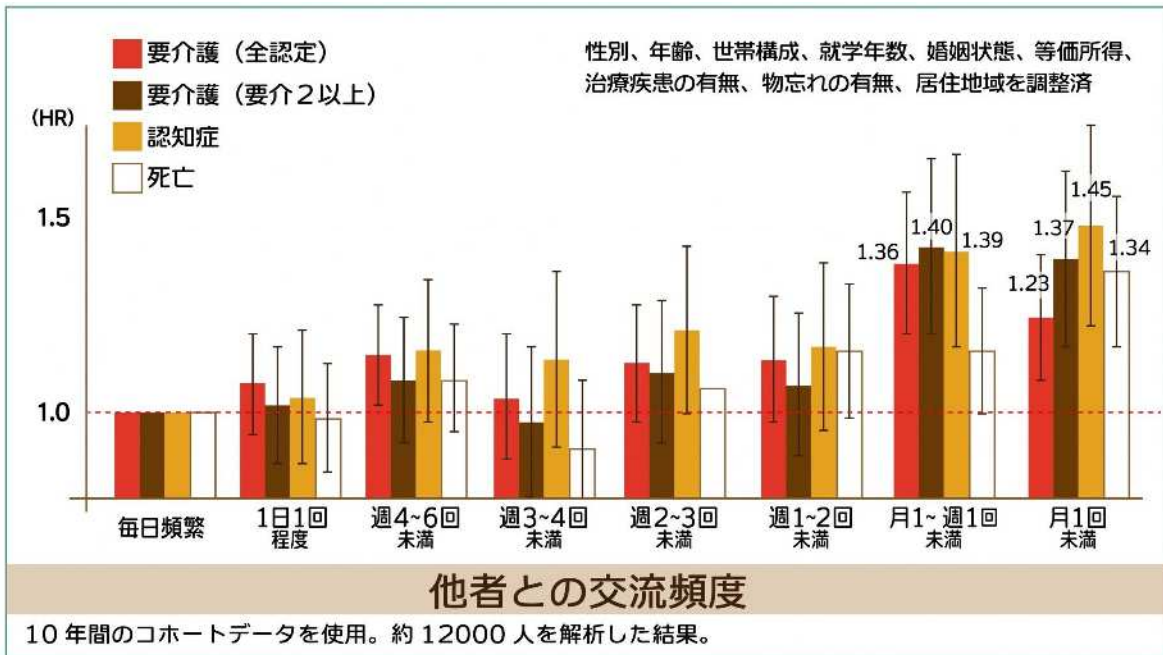
◆日頃の民生委員・児童委員の活動の中において、閉じこもりや認知症等が心配な高齢者を把握した際には、担当地区の地域包括支援センターに積極的に情報提供をお願いします。

◆情報提供を受けた地域包括支援センターは、訪問等により本人や家族と面談を実施の上、フレイル予防・介護予防を図れるような介護予防活動につなげられるように働きかけます。

◆地域包括支援センターへの情報提供にあたっては、地区の民生委員児童委員協議会で行われている、ケース検討等の時間を活用する方法が有効です。民生委員・児童委員の皆様が、日頃の活動で気になる家庭などについて、センターと情報共有・対応方法を検討したうえで訪問することで、効果的な支援ができます。



人との交流は週1回未満から健康リスクに ~月1回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい~



斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか (2015) 日本公衆衛生雑誌. 62(3) より

スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等への 社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症やうつ のリスクが低い傾向がみられる。

調査方法

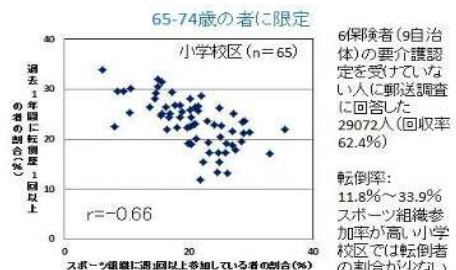
2010年8月~2012年1月にかけて、北海道、東北、関東、東海、関西、中国、九州、沖縄地方に分布する31自治体に居住する高齢者のうち、要介護認定を受けていない高齢者169,201人を対象に、郵送調査(一部の自治体は訪問調査)を実施。
112,123人から回答。
(回収率66.3%)

【研究デザインと分析方法】
研究デザイン: 横断研究
分析方法: 地域相関分析

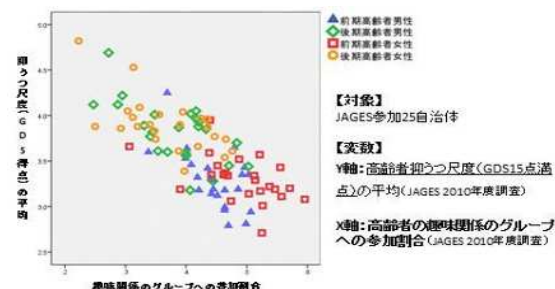
JAGES(日本老年学的評価研究)プロジェクト



スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、過去1年間に転倒したことのある前期高齢者が少ない相関が認められた。



趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほど、うつ得点(低いほど良い)の平均点が低い相関が認められた。



図表については、厚生労働科学研究班(研究代表者: 近藤克則氏)からの提供

ボランティアグループ等の地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない相関が認められた。

